

平成 29 年度 7 月 実施

第 7 回

農業簿記検定[®]

2 級 問題

注意事項

トイレなど途中退出後の再入室は認めません。試験開始の合図の前までに済ませてください

- 1 試験監督員の指示があるまで、この問題冊子は開かないようにしてください。
- 2 試験中、下記の使用が認められたもの以外は、すべてカバン等にしまい、机の中又は、足元等指定された場所に置いてください。試験中、使用が認められるものは、次のとおりです。
 - ・筆記具（BまたはHBの黒鉛筆/シャープペンシル）・消しゴム・定規・ラインマーカー
 - ・電卓（基準に適合したものに限る。又は算盤）・時計（通信機能を有するものを除く）
- 3 携帯電話等通信機器を使用することは認めません（時計の代わり又は電卓として使用も不可）。電源を切り、カバン等にしまってください。
- 4 試験監督員の指示に従わない場合、また、周囲に迷惑をかける等、適切な試験の実施に支障を来たす行為を行った場合には、不正受験とみなすことがあります。
- 5 上掲 4 の場合を含み、不正受験と認められた場合には、直ちに退室を命ずることがあります。
- 6 試験時間は、**2 時間（120 分）**です。試験開始の合図により、試験を始めてください。
- 7 この問題冊子には、**問題 25 問まで掲載**しており、**1 頁から 23 頁まで印刷**しています。試験監督員の指示に従い、頁を調べ、印刷不鮮明や落丁等があれば、挙手をして申し出てください。
- 8 解答は、別途配布した解答用紙（マークシート）に記入（該当番号の塗りつぶし）してください。
- 9 問題の内容に関する質問には、一切応じません。
- 10 退室可能時間は、試験開始後 30 分後から試験終了 10 分前です。
 - ※退出を希望する場合は、必ず挙手をして、試験監督員が解答用紙を確認し回収するまでは、席を立たないでください。一旦退出後の再入室は、認めません。
- 11 試験終了の合図とともに、直ちに、筆記具を置き、解答用紙を裏返してください。
- 12 試験監督員が解答用紙を回収し、受験番号や氏名等の記載内容を確認した後、退室可能を指示するまでは、席を立たないでください。
- 13 この問題冊子及び計算用紙は、持ち帰ることができます。解答用紙は、持ち帰れません。

主催 一般財団法人 日本ビジネス技能検定協会

監修 一般社団法人 全国農業経営コンサルタント協会

※“農業簿記検定[®]”は、一般社団法人 全国農業経営コンサルタント協会の登録商標です

問題 1 以下の文章のうち、誤っている文章が一つある。その文章の選択肢を一つ選びなさい。

【選択肢】

1. 農業簿記とは農企業（農業）に適用される簿記をいい、その特徴は生産活動の記録を行うことである。
2. 農企業では、製品の原価を計算することが重要な課題となり、この計算手続きを原価計算という。
3. 原価計算は、種々の目的を達成するために製品の原価を計算し、農業簿記は、その計算された結果を複式簿記の原理に基づいて帳簿に記入する。
4. 原価は、製造原価を意味する場合と、製造原価に販売費及び一般管理費を加えた総原価を意味する場合がある。
5. 製造原価は、製品（仕掛品・育成仮勘定）との関連により、変動費と固定費に分類される。

問題 2 以下の1～5は農業簿記において製造原価、販売費、一般管理費となる具体例を記述したものである。このうち、一つだけ誤っている組合せがある。その番号を答えなさい。

【選択肢】

	製造原価	販売費	一般管理費
1	収穫機械の固定資産税	販売所備品の減価償却費	本社建物の電気代
2	果樹園の作業員給料	通販サイトの年会費	本社備品の減価償却費
3	トラクターの燃料代	直販農産物の梱包発送費	本社総務職員の通勤費
4	販売員の営業出張旅費	乳用牛の飼料費	直売所冷蔵庫の修理代
5	水田の農薬費	直売所の従業員給料	本社役員給料

問題 3

以下の〔仕訳〕と〔勘定〕の資料から、空欄（①）～（②）に入る金額として正しいものの組合せを示す番号を一つ選びなさい。

〔仕訳〕（単位：円）

(1) 肥料 97,000 円を掛けで購入した。なお、引取運賃 3,000 円は月末に支払うことにした。

（肥料費）（①）（買掛金） 97,000
（未払金）（ ）

(2) 期末に肥料の実地棚卸を行ったところ、1袋 6,000 円の肥料が2袋残っていることを確認した。

（原材料）（ ）（肥料費）（ ）

〔勘定〕（単位：円）

肥料費

(1) 買掛金 97,000	(2) 原材料 (②)
(1) 未払金 ()	

原材料

(2) 肥料費 ()	
-------------	--

【選択肢】

	①	②
1	100,000	12,000
2	97,000	6,000
3	100,000	88,000
4	97,000	12,000
5	100,000	85,000

問題 4 以下の〔仕訳〕と〔勘定〕の資料から、空欄（①）～（④）に入る金額として正しいものの組合せを示す番号を一つ選びなさい。

〔仕訳〕（単位：円）

9/ 1 賃金手当の前月末未払額は（ ① ）円であった。

（ 未払費用 ） （ ① ） （ 賃金手当 ） （ ① ）

9/20 賃金手当の当月支給総額は、1,671,000 円であり、預り金 127,000 円を差し引いた金額を現金で支払った。

（ 賃金手当 ） （ ） （ 預り金 ） 127,000
 （ 現金 ） （ ② ）

9/30 作業員の実際作業時間は、直接作業時間 1,600 時間、間接作業時間 200 時間、手待時間 50 時間であった。なお、予定消費賃率は 900 円／時間であった。

（ 仕掛品 ） 1,440,000 （ 賃金手当 ） 1,665,000
 （ 製造間接費 ） 225,000

9/30 賃金手当の当月末未払額は 206,000 円であった。また、賃金手当勘定における貸借差額を賃率差異勘定へ振り替えた。

（ 賃金手当 ） 206,000 （ 未払費用 ） 206,000
 （ 賃率差異 ） （ ④ ） （ 賃金手当 ） （ ④ ）

〔勘定〕（単位：円）

賃金手当					
9/20	預り金	127,000	9/ 1	未払費用	190,000
"	現金	(②)	9/30	仕掛品	(③)
9/30	未払費用	()	"	製造間接費	()
			"	賃率差異	(④)
		()			()

【選択肢】

	①	②	③	④
1	206,000	1,671,000	1,440,000	149,000
2	206,000	1,671,000	1,440,000	22,000
3	190,000	1,544,000	1,440,000	22,000
4	206,000	1,544,000	1,440,000	22,000
5	190,000	1,544,000	1,665,000	0

問題 5 以下の資料に基づき、各経費の当月消費額の合計額として正しい選択肢を一つ選びなさい。

費目	内訳					
作業委託費	前月末未払額	38,000 円	当月支払額	120,000 円	当月末未払額	53,000 円
賃借料	前月末前払額	25,000 円	当月支払額	74,000 円	当月末前払額	23,000 円
減価償却費	年間見積額	300,000 円				
動力光熱費	当月支払額	15,100 円	当月測定額	14,900 円		

【選択肢】

1. 233,900 円
2. 234,100 円
3. 246,900 円
4. 250,900 円
5. 251,100 円

問題 6 以下の資料に基づき、実際部門費集計表の作成を行い、さらに当該仕訳を行った場合に空欄（ ① ）～（ ④ ）に入る金額として正しい組合せの番号を一つ選びなさい。

[資料]

1. 実際部門費集計表（単位：円）

	金額	水稻部門	麦部門	豆部門
部門個別費				
肥料費	96,500	48,800	24,500	23,200
農薬費	95,200	56,300	20,100	18,800
作業委託費	103,600	55,200	34,600	13,800
部門共通費				
減価償却費	300,000	()	()	(①)
共済掛金	120,000	()	(②)	()
動力光熱費	36,000	(③)	()	()
部門費合計	751,300	()	()	()

2. 部門共通費配賦基準に関する資料

	配賦基準	水稻部門	麦部門	豆部門
減価償却費	耕作面積	240 m ²	200 m ²	160 m ²
共済掛金	機械価額	2,100,000 円	1,800,000 円	900,000 円
動力光熱費	機械運転時間	3,300 時間	2,800 時間	1,100 時間

3. 仕訳（単位：円）

（ 水稻部門費 ） （ ④ ） （ 製造間接費 ） （)
 （ 麦部門費 ） （)
 （ 豆部門費 ） （)

[金額]

ア 238,000 イ 5,500 ウ 80,000 エ 16,500
 オ 52,500 カ 349,300 キ 100,000 ク 45,000

【選択肢】

	①	②	③	④
1	ウ	ク	エ	カ
2	ウ	ク	エ	ア
3	ウ	ク	イ	ア
4	ウ	オ	イ	カ
5	キ	ク	エ	ア

問題 7

大原農園では、実際個別原価計算を行っている。以下の指示書別原価計算表と仕掛品勘定および製品勘定を作成し、空欄（①）～（⑤）に入る金額として正しい組合せの番号を一つ選びなさい。

1. 各生産指示書に関するデータ

	キャベツ	ブロッコリー	カリフラワー
直接材料費	681,000 円	478,000 円	317,000 円
直接労務費	? 円	? 円	? 円
製造間接費	? 円	? 円	? 円
直接作業時間	145 時間	110 時間	80 時間
備考	前期着手、 当期収穫・引渡	当期着手・収穫、 当期末未引渡	当期着手、 当期末未収穫

- 直接労務費については予定賃率を用いており、予定賃率は1,100 円/時間であった。
- 製造間接費は、直接作業時間当たり 2,800 円で各指示書に予定配賦を行っている。
- 期首仕掛品のキャベツは 450,000 円であった。
- 期首製品のハクサイは 890,000 円であり、当期に引渡し済みである。

6. 指示書別原価計算表（単位：円）

	キャベツ	ブロッコリー	カリフラワー	合 計
期首仕掛品原価	()	—	—	()
直接材料費	()	()	()	()
直接労務費	(①)	()	()	()
製造間接費	()	(②)	()	()
合 計	()	()	()	()
備 考	()	()	()	

〔勘定〕（単位：円）

仕掛品

前期繰越	()	製 品	()
種 苗 費	()	次 期 繰 越	(③)
賃 金 手 当	()		
製造間接費	()		
	()		()

製 品

前期繰越	()	売上原価	(④)
仕 掛 品	()	次 期 繰 越	(⑤)
	()		()

【選択肢】

	①	②	③	④	⑤
1	368,500	406,000	450,000	2,586,500	890,000
2	159,500	308,000	629,000	2,586,500	907,000
3	159,500	406,000	629,000	2,603,500	907,000
4	159,500	308,000	629,000	2,603,500	907,000
5	368,500	938,000	450,000	3,493,500	890,000

問題 8

当農場ではレタスを10a作付けしており、5,000玉のレタスが収穫される予定である。生産指示書（標準原価カード）および実際の発生コストは以下のとおりであった。レタス一玉当たりの標準原価と直接材料費の価格差異および数量差異を算定し、その正しい組合せの番号を一つ選びなさい。なお、原価差異の算定にあたり、不利差異の場合には「不利」、有利差異の場合には「有利」と記載している。

1. 生産指示書（標準原価カード）5,000玉

肥料費	1,250円/袋	×	20袋	=	25,000円
直接労務費	900円/h	×	160h	=	144,000円
製造間接費	700円/h	×	160h	=	112,000円
合計					<u>281,000円</u>

2. 肥料費（直接材料費）の実績に関する資料

$$1,200 \text{円/袋} \times 22 \text{袋} = 26,400 \text{円}$$

【選択肢】

	レタス1玉当たりの標準原価	価格差異	数量差異
1	56.20円/玉	1,100円（不利）	2,500円（有利）
2	56.48円/玉	1,100円（有利）	2,500円（不利）
3	56.20円/玉	1,100円（有利）	2,500円（不利）
4	56.48円/玉	1,100円（不利）	2,500円（有利）
5	56.20円/玉	1,100円（有利）	2,400円（不利）

問題 9 当社は農産物加工品の販売を計画している。以下の資料に基づき、(1) (2) の二つの問いの解答として正しい選択肢を一つ選びなさい。

[資料]

販売価格	200 円／個	変動費	120 円／個
固定費額	480,000 円	予定販売量	7,500 個

- (1) 損益分岐点売上高はいくらか。
 (2) 予定販売量 7,500 個の際の安全余裕率は何%か。

【選択肢】

	(1)	(2)
1	1,200,000	80 %
2	480,000	200 %
3	720,000	52 %
4	1,200,000	20 %
5	720,000	208 %

問題 10 次の取引につき、入金伝票、出金伝票、振替伝票を作成した場合において、それぞれの伝票に記載される金額の合計額として正しい組み合わせとなるものを一つ選びなさい。なお、3 伝票制を採用しているケースを前提に考えること。

- 野菜の種子 35,000 円を購入し、代金は現金で支払った。
- 水稻を 60,000 円で販売し、代金は現金で受け取った。
- 野菜を 250,000 円で販売し、代金は掛けとした。
- 従来から使っていた動力耕運機を 500,000 円で売却し、代金は現金で受け取った。
- 掛け販売していた野菜の代金 250,000 円が普通預金に振り込まれた。
- パソコン 120,000 円を購入し、代金は現金で支払った。
- トラクターの修理代として 80,000 円請求されたが、後日支払うこととした。
- アルバイトの賃金 65,000 円を現金で支払った。
- 銀行から 1,000,000 円を借り入れた。この借入金は普通預金に入金された。

【選択肢】

	入金伝票	出金伝票	振替伝票
1	1,810,000 円	220,000 円	330,000 円
2	560,000 円	220,000 円	580,000 円
3	560,000 円	300,000 円	500,000 円
4	560,000 円	220,000 円	1,580,000 円
5	1,560,000 円	300,000 円	1,500,000 円

問題 11 次の乳用牛の育成に関する取引について、X9年3月期に、乳用牛A～Cのそれぞれについて、生物勘定へ振り替える金額として正しいものの組み合わせとなる番号を一つ選びなさい。(決算年1回、決算日3月31日)

[取引]

1. X7年4月より乳用牛A及び乳用牛Bの育成を開始した。X8年3月期において乳牛の育成に要した飼料費は、乳用牛Aが118,000円、乳用牛Bが86,200円であった。
2. X8年3月期において育成中の乳用牛に使用した飼料費以外の育成費は、乳用牛Aが164,200円、乳用牛Bが138,800円であった。
3. X8年4月より乳用牛Cの育成を開始した。また従来から育成中の乳用牛A及び乳用牛Bが、初産の分娩をし搾乳を開始した。乳用牛Aの分娩までの当期の飼料費は36,800円、飼料費以外の育成費は18,600円であった。また、乳用牛Bの分娩までの当期の飼料費は76,200円、飼料費以外の育成費は46,800円であった。
4. X9年3月期において乳用牛Cに使用した育成費について計算をしたところ、飼料費は122,000円、飼料費以外の育成費は168,800円であった。

【選択肢】

	乳用牛A	乳用牛B	乳用牛C
1	337,600円	348,000円	0円
2	282,200円	225,000円	290,800円
3	337,600円	348,000円	290,800円
4	317,200円	368,400円	290,800円
5	282,200円	225,000円	0円

問題 12 以下の取引に関する仕訳として、正しい記述の番号を一つ選びなさい。

X8年4月1日に農具倉庫（取得価額 5,000,000 円、期首減価償却累計額 2,000,000 円、償却率 0.050、定額法、残存価額：0、記帳方法：間接法）が全焼した。なお、同倉庫には保険会社との間に火災保険契約 4,000,000 円を結んでいたため、直ちに保険金の請求をした。（決算年 1 回、決算日 3 月 31 日）

【選択肢】

- | | | | | | | |
|--------|---------|-----------|-----|---|---|-----------|
| 1. (借) | 減価償却累計額 | 2,000,000 | (貸) | 建 | 物 | 5,000,000 |
| | 減価償却費 | 250,000 | | | | |
| | 災害損失 | 2,750,000 | | | | |
| 2. (借) | 減価償却累計額 | 2,000,000 | (貸) | 建 | 物 | 5,000,000 |
| | 減価償却費 | 250,000 | | | | |
| | 未決算 | 2,750,000 | | | | |
| 3. (借) | 減価償却累計額 | 2,000,000 | (貸) | 建 | 物 | 5,000,000 |
| | 災害損失 | 3,000,000 | | | | |
| 4. (借) | 減価償却累計額 | 2,000,000 | (貸) | 建 | 物 | 5,000,000 |
| | 未決算 | 4,000,000 | | 保 | 險 | 差 |
| | | | | 益 | | 1,000,000 |
| 5. (借) | 減価償却累計額 | 2,000,000 | (貸) | 建 | 物 | 5,000,000 |
| | 未決算 | 3,000,000 | | | | |

問題 13

次の所有権移転ファイナンス・リース取引に関する〔資料〕に基づいて、X2年3月31日における決算整理後残高試算表の(①)～(③)にあてはまる数値を、下記1～5のうちから、正しい組み合わせとなる番号を一つ選びなさい。なお、計算上生じる端数は円未満四捨五入する。
(決算年1回、決算日3月31日)

〔資料〕

- (1) 所有権移転条項：あり
- (2) 解約不能のリース期間：3年
- (3) リース取引開始日：X1年4月1日
- (4) リース料：月額：30,000円(各年3月31日に1年分360,000円を現金で支払う)
総額：1,080,000円
- (5) 貸手の購入価額：1,000,000円(借手においても明らかである)
- (6) 貸手の計算利率：年3.95%(借手においても明らかである)
- (7) リース物件の経済的耐用年数：4年
- (8) 借手の減価償却方法：定額法(償却率：0.250、残存価額0、間接法により処理)

決算整理後残高試算表

X2年3月31日

借	方	勘定科目	貸	方
	× × ×	・ ・ ・		× × ×
		リース債務	(①)	
		減価償却累計額	(②)	
(③)		支払利息		
	× × ×	・ ・ ・		× × ×
	× × ×	合 計		× × ×

【選択肢】

	①	②	③
1	762,660	270,000	42,660
2	762,660	270,000	39,500
3	762,660	250,000	39,500
4	679,500	250,000	39,500
5	679,500	250,000	42,660

問題 14

綾川ファーム(株)は米の栽培を行う 3 月決算法人である。下記の〔連続仕訳〕のうち、誤っている記述の番号を一つ選びなさい。なお、綾川ファーム(株)は、農業経営基盤強化準備金の経理については、損金経理方式、圧縮記帳については、直接減額方式を採用している。

〔連続仕訳〕

- ① X1 年 5 月 7 日：作付面積を基準とした交付金 2,122,000 円が普通預金に入金された。

(借) 普通預金 2,122,000 (貸) 作付助成収入 2,122,000

- ② X2 年 3 月 31 日：X1 年 5 月 7 日に交付を受けた交付金全額を、農業経営基盤強化準備金として繰り入れた。

(借) 農業経営基盤強化準備金繰入 2,122,000 (貸) 農業経営基盤強化準備金 2,122,000

- ③ X2 年 4 月 1 日：積み立ててあった農業経営基盤強化準備金のうち、2,000,000 円を取り崩した。

(借) 農業経営基盤強化準備金 2,000,000 (貸) 農業経営基盤強化準備金戻入 2,000,000

- ④ X2 年 4 月 1 日：トラクターを 3,200,000 円で購入し普通預金から支払った。また、当該機械について圧縮記帳を行った。

(借) 機械装置 3,200,000 (貸) 普通預金 3,200,000

(借) 固定資産圧縮損 2,000,000 (貸) 機械装置 2,000,000

- ⑤ X3 年 3 月 31 日：X2 年 4 月 1 日に購入したトラクターにつき、減価償却費を計上した。(償却率：0.357、償却方法：定率法、記帳方法：直接法)

(借) 減価償却費 428,400 (貸) 減価償却累計額 428,400

【選択肢】

1. ①
2. ②
3. ③
4. ④
5. ⑤

問題 15 下記の〔記述〕のうち、誤っている番号を一つ選びなさい。

- ① 圧縮記帳とは、国庫補助金等で取得等した固定資産の帳簿価額を、国庫補助金等の範囲内で一定の額まで圧縮して記帳する方法である。
- ② 当期の費用となる原因（収益獲得のために役立った事実）があるにもかかわらず、その支払いなどが次期以降になる場合がある。この場合、当期に原因がある以上、当期の費用として計上しなければ正しい経営成績が計算できない。そこで、その金額を過去の経験などに基づいて合理的に見積もった額により費用計上する。この場合の費用計上に対する貸方項目を引当金という。
- ③ 農業経営基盤強化準備金は、租税特別措置法上の準備金である。税務上、青色申告をする認定農業者等が経営所得安定対策などの交付金を受領して農業経営基盤強化準備金として積み立てた場合、その交付金の額などを基礎として計算した積立限度額以下の金額を必要経費（個人）または損金（法人）に算入する。
- ④ 剰余金の配当等とは、株主総会の決議により、損益勘定へ振り替えた獲得利益等（剰余金）を配当その他に処分することをいう。
- ⑤ 法人は、事業活動を行ううえでさまざまな税金を納付するが、法人が獲得した利益に基づいて課税される税金として、法人税、住民税、事業税などがあり、これらを総称して法人税等とよばれる。

【選択肢】

- 1. ①
- 2. ②
- 3. ③
- 4. ④
- 5. ⑤

問題 16

鴨部農事組合法人（決算年1回 3月31日）は、X2年度の決算について、X3年6月26日の総会の決議により〔資料〕のとおり剰余金の処分が承認された。

〔資料〕に基づき、剰余金の処分に係る正しい仕訳の番号を、〔仕訳〕から一つ選びなさい。

〔資料〕

鴨部農事組合法人

剰 余 金 処 分 案

自 平成 X2年 4月 1日
至 平成 X3年 3月 31日 (単位：円)

I 当期末処分剰余金			
当期剰余金		15,732,229	
前期繰越剰余金		329,930	
		<hr/>	16,062,159
II 剰余金処分量			
利益準備金		2,000,000	
任意積立金			
農業経営基盤強化準備金	3,220,200		
	<hr/>	3,220,200	
配当金			
事業分量配当金	520,025		
従事分量配当金	6,279,000	6,799,025	12,019,225
	<hr/>	<hr/>	<hr/>
III 次期繰越剰余金			4,042,934
			<hr/> <hr/>

【選択肢】

〔仕訳〕

1.	(借) 損	益	12,019,225	(貸)	繰越利益剰余金	2,000,000
				(貸)	農業経営基盤強化準備金	3,220,200
				(貸)	未払配当金	6,799,025
2.	(借) 繰越利益剰余金	16,062,159	(貸)	利益準備金	6,042,934	
			(貸)	農業経営基盤強化準備金	3,220,200	
			(貸)	未払配当金	6,799,025	
3.	(借) 繰越利益剰余金	12,019,225	(貸)	利益準備金	2,000,000	
			(貸)	農業経営基盤強化準備金	3,220,200	
			(貸)	未払配当金	6,799,025	

4.	(借)	利益準備金	2,000,000	(貸)	損	益	12,019,225
	(借)	農業経営基盤強化準備金	3,220,200				
	(借)	未払配当金	6,799,025				
5.	(借)	利益準備金	2,000,000	(貸)	繰越利益剰余金		12,019,225
	(借)	農業経営基盤強化準備金	3,220,200				
	(借)	仮払配当金	6,799,025				

問題 17

下記の〔連続仕訳〕のうち、誤っている記述の番号を一つ選びなさい。なお、消費税等の記帳方法は税込方式を採用している。

〔連続仕訳〕

- ① 前期の決算に係る消費税等の納付税額 1,224,200 円を普通預金から支払った。

(借) 未払消費税 1,224,200 (貸) 普通預金 1,224,200

- ② 農具の購入代金 70,000 円を消費税等 5,600 円とともに現金で支払った。

(借) 農具費 75,600 (貸) 現金 75,600

- ③ 野菜の販売代金 300,000 円(税抜)が普通預金に入金された。なお、消費税等相当額 24,000 円は別途現金で受け取った。

(借) 普通預金 300,000 (貸) 野菜売上高 300,000

(借) 現金 24,000 (貸) 野菜売上高 24,000

- ④ 以前に野菜 1,080,000 円(税込)分の注文を受け、508,000 円を現金で受け取っていたが、台風被害により 324,000 円(税込)分しか出荷できなかったため、差額 184,000 円を現金で返金した。

(借) 前受金 508,000 (貸) 現金 184,000

(貸) 野菜売上高 324,000

- ⑤ 期末の消費税等の納付税額を計算したところ、1,370,800 円であった。

(借) 仮払消費税 1,370,800 (貸) 未払消費税 1,370,800

【選択肢】

1. ①
2. ②
3. ③
4. ④
5. ⑤

問題 18～25 畜産業を営むX株式会社のX8年4月1日からX9年3月31日事業年度に関する、次の〔資料1〕及び〔資料2〕に基づいて、以下の設問に答えなさい。なお、原価計算制度は採用していない。

〔資料1〕 決算整理前残高試算表

300,000	現金	
38,256,572	普通預金	
19,880,169	売掛金	
3,534,444	原材料	
55,075,235	仕掛品	
15,855,868	建物	
23,876,500	機械装置	
4,937,253	生物	
	買掛金	25,573,537
	長期借入金	43,572,349
	退職給付引当金	9,200,000
	資本金	8,000,000
	繰越利益剰余金	26,232,319
	製品売上高	178,953,358
223,746	種苗費	
13,982,493	素畜費	
84,351,644	飼料費	
7,250,035	賃金手当	
2,385,855	動力光熱費	
7,200,000	役員報酬	
15,432,855	販売手数料	
	受取利息	2,552
	国庫補助金収入	1,500,000
	固定資産売却益	380,000
871,446	支払利息	
293,414,115		293,414,115

〔資料2〕決算整理事項

- (1) 原材料の期首棚卸高は、3,534,444円であり、期末棚卸高は、4,215,350円であった。
- (2) 仕掛品の期首棚卸高は、55,075,235円であり、期末棚卸高は、49,345,786円であった。
- (3) 今期において、機械装置を取得するための国庫補助金1,500,000円を受領し、当該補助金を充当して、X8年10月に機械装置Aを3,000,000円で購入し、直ちに事業の用に供した(購入価格で機械装置勘定へ計上済)。当該機械装置Aについて、直接減額方式により、圧縮記帳を行う。なお、機械装置Aの耐用年数は7年であり、定率法(償却率0.286)により減価償却費を計上する(記帳方法は直接法)。
- (4) 今期において新規に取得した機械装置は上記(3)の機械装置Aのみである。また、今期において除却または売却した機械装置はない。機械装置A以外の機械装置の耐用年数も7年であり、定率法(償却率0.286)により減価償却費を計算し、直接法により計上する。
- (5) 固定資産売却益380,000円は繁殖牛の売却による利益である。繁殖牛の売却は每期継続して行われているため、総額主義による会計処理方法へ修正を行う。なお、売却した繁殖牛に係る情報は以下の通りである。

繁殖牛の売却収入	1,500,000円
期首時点における当該繁殖牛の帳簿価額	1,120,000円
当該繁殖牛の売却時までの減価償却費相当額(未計上)	210,000円

- (6) 当期に計上すべき減価償却費は、以下の通りである(すべて製造に関する費用である)。

固定資産	当期償却額
建物	953,324円
機械装置A(上記(3))	(ア)
その他の機械装置	(イ)
今期に売却した繁殖牛(上記(5))	210,000円
その他の繁殖牛	625,121円
合計	(推定)

- (7) 決算において、退職給付引当金523,800円を繰り入れる。なお、繰入額はすべて営業費用である。
- (8) 決算において、法人税等の年税額が11,406,800円と確定した。

問題 18 上掲の〔資料2〕決算整理事項(6)の空欄(ア)と(イ)を計算し、下記の記述のうちから、正しい組合せとなる番号を一つ選びなさい。

【選択肢】

- | | | | |
|----------------|---------------|----------------|---------------|
| 1. (ア) 214,500 | (イ) 6,828,679 | 2. (ア) 858,000 | (イ) 5,970,679 |
| 3. (ア) 429,000 | (イ) 6,828,679 | 4. (ア) 429,000 | (イ) 5,970,679 |
| 5. (ア) 214,500 | (イ) 5,970,679 | | |

製造原価報告書

(単位:円)

I 材料費

期首材料棚卸高	()
種 苗 費	()
素 畜 費	()
飼 料 費	()
計	()

期末材料棚卸高	()	(ウ)
---------	-----	-----

II 労務費

賃 金 手 当	()
---------	-----

III 経 費

動力光熱費	()
()	()

当期総製造費用	()
---------	-----

期首仕掛品棚卸高	()
----------	-----

計	()
---	-----

期末仕掛品棚卸高	()
----------	-----

当期製品製造原価	(工)
----------	-----

問題 19 上掲の製造原価報告書の空欄(ウ)と(工)を計算し、下記の記述のうちから、正しい組合せとなる番号を一つ選びなさい。

【選択肢】

- | | | | |
|--------------------|-----------------|--------------------|-----------------|
| 1. (ウ) 97,876,977 | (工) 113,242,316 | 2. (ウ) 97,876,977 | (工) 121,215,940 |
| 3. (ウ) 106,307,677 | (工) 113,242,316 | 4. (ウ) 106,307,677 | (工) 121,215,940 |
| 5. (ウ) 97,876,977 | (工) 211,933,888 | | |

損益計算書

X株式会社 自 X8年4月1日 至 X9年3月31日 (単位：円)

I	売上高		
	1. 製品売上高	()	
	2. 生物売却収入	(才)	()
II	売上原価		
	1. 当期製品製造原価	()	
	2. (力)	(キ)	()
	売上総利益		()
III	販売費及び一般管理費		
	1. 役員報酬	()	
	2. 販売手数料	()	
	3. 退職給付費用	()	()
	営業利益		()
IV	営業外収益		
	1. 受取利息		()
V	営業外費用		
	1. 支払利息		()
	経常利益		()
VI	特別利益		
	1. 国庫補助金収入		()
VII	特別損失		
	1. (ク)		(ケ)
	税引前当期純利益		()
	(コ)		()
	当期純利益		(サ)

問題 20 上掲の損益計算書の空欄 (才) と (キ) を計算し、下記の記述のうちから、正しい組合せとなる番号を一つ選びなさい。

【選択肢】

- | | | |
|------------------|------------|---------------|
| 1. (才) 1,500,000 | (力) 生物売却原価 | (キ) 1,120,000 |
| 2. (才) 380,000 | (力) 生物製造原価 | (キ) 1,120,000 |
| 3. (才) 1,500,000 | (力) 生物製造原価 | (キ) 910,000 |
| 4. (才) 380,000 | (力) 生物売却原価 | (キ) 910,000 |
| 5. (才) 1,500,000 | (力) 生物売却原価 | (キ) 910,000 |

問題 21 上掲の損益計算書の空欄（ケ）を計算し、下記の記述のうちから、正しい組合せとなる番号を一つ選びなさい。

【選択肢】

1. (ク) 固定資産売却損 (ケ) 1,500,000
2. (ク) 固定資産圧縮損 (ケ) 3,000,000
3. (ク) 固定資産除却損 (ケ) 1,500,000
4. (ク) 固定資産圧縮損 (ケ) 1,500,000
5. (ク) 固定資産売却損 (ケ) 3,000,000

問題 22 上掲の損益計算書の空欄（サ）を計算し、下記の記述のうちから、正しい組合せとなる番号を一つ選びなさい。

【選択肢】

1. (コ) 租税公課 (サ) 22,895,069
2. (コ) 法人税等 (サ) 34,301,869
3. (コ) 法人税等 (サ) 22,895,069
4. (コ) 租税公課 (サ) 34,301,869
5. (コ) 法人税等 (サ) 24,395,069

問題 23 次掲の貸借対照表の空欄（シ）と（ス）を計算し、下記の記述のうちから、正しい組合せとなる番号を一つ選びなさい。

【選択肢】

1. (シ) 16, 191, 321 (ス) 4, 312, 132
2. (シ) 17, 691, 321 (ス) 4, 312, 132
3. (シ) 17, 908, 821 (ス) 4, 312, 132
4. (シ) 14, 691, 321 (ス) 3, 192, 132
5. (シ) 16, 191, 321 (ス) 3, 192, 132

問題 24 次掲の貸借対照表の空欄（セ）と（ソ）を計算し、下記の記述のうちから、正しい組合せとなる番号を一つ選びなさい。

【選択肢】

1. (セ) 8, 000, 000 (ソ) 9, 723, 800
2. (セ) 11, 406, 800 (ソ) 9, 200, 000
3. (セ) 8, 000, 000 (ソ) 9, 200, 000
4. (セ) 11, 406, 800 (ソ) 1, 500, 000
5. (セ) 11, 406, 800 (ソ) 9, 723, 800

問題 25 次掲の貸借対照表の空欄（タ）を計算し、下記の記述のうちから、正しい金額の番号を一つ選びなさい。

【選択肢】

1. 22, 895, 069
2. 26, 232, 319
3. 34, 301, 869
4. 35, 170, 763
5. 49, 127, 388

貸 借 対 照 表

X株式会社

X9年3月31日

(単位：円)

資産の部		負債の部	
I 流動資産		I 流動負債	
現金預金	()	買掛金	()
売掛金	()	未払法人税等	(セ)
原材料	()	流動負債合計	()
仕掛品	()	II 固定負債	
流動資産合計	()	長期借入金	()
II 固定資産		退職給付引当金	(ソ)
1. 有形固定資産		固定負債合計	()
建物	()	負債合計	()
機械装置	(シ)	純資産の部	
生物	(ス)	I 株主資本	
有形固定資産合計	()	資本金	8,000,000
固定資産合計	()	利益剰余金	
		その他利益剰余金	
		繰越利益剰余金	(タ)
		利益剰余金合計	()
		純資産合計	()
		負債・純資産合計	()
資産合計	()		